

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもルームFine			
○保護者評価実施期間	R6年 10月 1日 ~			R6年 10月 31日
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	15家庭	(回答者数)	15家庭	
○従業者評価実施期間	R6年 10月 1日 ~			R6年 10月 31日
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6人	(回答者数)	6人	
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 11月 15日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	十分な大人の見守りのもと、小集団での生活を安心して経験できる環境を提供できている。	10名定員で支援員5名の配置で、一人ひとりの子どもに寄り添いながら生活することが出来ています。発達状況や年齢に合わせたプログラムと環境を用意し、2、3名の小集団から人との関わりを経験できるようにしています。	今後は、午前・午後とクラス分けを行い、更に個別化した環境で支援ができるようにしていきたいと思います。
2	低年齢児の受け入れが可能であり、早期からの療育を行なえます。	保育士が多数在籍しており、1歳半健診での指摘から当事業所を利用される方が多いです。保護者の悩みに寄り添い、早くからお子様の個性を理解することでより包括的なサポートが出来ています。また、1.2歳のお子様は発語の悩みが圧倒的に多く、定期的に言語聴覚士が個別療育を行っています。	引き続き、保育士を中心として低年齢児に適した環境作りを徹底していきます。更に、専門性を高めるために研修や多職種との連携（臨床心理士・理学療法士・作業療法士など）ができる体制を整えていきたいと思っています。
3	保護者の悩みや相談にいつでも対応できる体制を作ることが出来ています。	事業所とLINEを繋ぎ、日々保護者との連絡が密に取れるようにしています。電話や対面でのお話を前に、ちょっとした相談や悩みなど思いを伝えられるということが安心に繋がっているようです。送迎時にお子様の一日の様子をお伝えしたり、面談の機会も多くもっています。	引き続き、安心して相談できる環境を保ちつつ、保護者が気軽に来所して日々のお子様の様子を見る能够性を積極的に作っていこうと思っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育の内容や日々の取り組みが保護者に伝えられていない部分がありました。	活動プログラムについて『わからない』という意見がありました。日々の様子は連絡帳でお伝えしているが、より具体的な支援内容やプログラム（どのようなねらいで行っているか）をより丁寧にお伝えする必要があると感じました。	支援内容やその活動のねらいを、おたよりや日々の連絡帳でお伝えするようにしていきます。
2	保護者同士の交流の機会が少なかったこと	開設初年度ということもあります、最低限の行事のみの企画でした。その為、保護者参加や交流会などの機会を充実させることができませんでした。今後、予定している保護者参加型の行事もあります。（まだ告知していない）	予め、年間の行事を年度初めにお伝えし、保護者が参加できる行事を企画していきたいと思います。また、いつでも保護者が来所してお子様の様子を見る能够性を積極的にお伝えしていこうと思っています。
3			